



# 只見町ブナセンターだより

## <季節のごあいさつ>

ブナの緑が深まり、タニウツギやヒメサユリが咲き始め少しずつ夏の訪れを感じます。新年度のご挨拶が遅くなりましたが、只見町ブナセンターは今年度も只見町の自然環境やそれを拠り所とした地域の生活文化を広く知っていただけるように、付随施設での展示の充実、行事の開催などの活動に職員一同より一層取り組んで参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

===== 開 催 中 =====

### 【企画展】

## 守りたい！只見の野生動植物 -只見町の野生動植物を保護する条例-

- 会 期：2018年6月25日(月)まで開催
- 場 所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー

===== 今 後 の 行 事 案 内 =====

### 【ブナセンター講座】 (兼)公認自然ガイドフォローアップ研修

## 雪ふる里山を舞台とした環境教育の実践 -自然体験を通じて「伝えたい」こと、「伝わる」こと-

十日町市松之山の「森の学校」キョロロは、只見町と同じ豪雪地帯にあり、博物館活動ばかりでなく、市民と「協働」した地域づくりを実践されています。本講座では、キョロロの野外での環境教育に関連したソフト事業を中心に、その目的や意義、気を付けたり目指すところ、事業の成果・効果などを紹介いただきます。

- 講 師：小林 誠 氏

(十日町市立里山科学館 越後松之山「森の学校」キョロロ 学芸員)

- 開催日時：2018年6月16日(土) 13:30~15:30
- 会 場：ただみ・ブナと川のミュージアム セミナー室
- 参加費：無料(但し、入館料が必要です)



【自然観察会】 (兼)公認自然ガイドフォローアップ研修

## 大谷地と周辺の森林植生を観察しよう

大谷地では、ワタスゲなどが優占する高層湿原タイプの植生からヨシ、カサスゲが優占する低層湿原タイプの植生が見られます。また、大谷地を囲うようにヤチダモ林が成立し、周辺に見られるナラの二次林やブナ林など多様な森林植生についても観察します。

- 開催日時：2018年6月17日(日) 9:30~12:30
- 観察場所：布沢太田 大谷地周辺
- 集合場所：森林の分校ふざわ 9:00 (只見町大字布沢字大久保 544)
- 参加費：高校生以上 500 円、小中学生 400 円 (保険料を含む)
- 定員：30 名 事前申込が必要です。(只見町ブナセンターまで ☎0241-72-8355)

【企画展アーカイブ】

## 只見の手工芸

今年度は、過去に行った企画展を振り返る企画展アーカイブを行います。第1弾は、只見の手工芸について、自然環境や利用される天然素材に着目しながら伝統技術によって作られたカゴやザルを中心に紹介します。

- 会期：2018年6月27日(水) ~7月23日(月)
- 場所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー



【ブナセンター講座】

## 工芸 - 自然と人をつなぐものづくり

自然の素材をわけてもらい、活かしながら、人の手が生み出す工芸は自然と人をつなぐものづくりです。福島県内の工芸などの話から、自然と人の関係を紹介します。

- 講師：小林 めぐみ 氏 (福島県立博物館 専門学芸員)
- 開催日時：2018年7月1日(日) 13:30~15:30
- 会場：ただみ・ブナと川のミュージアム セミナー室
- 参加費：無料 (但し、入館料が必要です)

===== 刊 行 物 新 刊 の ご 案 内 =====

### 企画展解説シリーズ「只見の湿原 - その生態と歴史」

企画展「只見の湿原 - その生態と歴史」のブックレットを刊行しました。「ただみ・ブナと川のミュージアム」と「ふるさと館田子倉」で販売しております (価格 500 円)。

## ===== 活 動 報 告 =====

【研究発表会】 1月28日（日）

### 平成 29 年度「自然首都・只見」学術調査研究助成金事業成果発表会

平成 29 年度「自然首都・只見」学術調査研究助成事業の成果発表会が朝日振興センター 2 階ホールで行われ、当日は町内外から約 40 名の方が聴講されました。この事業は、只見町の自然環境、生活・文化について調査研究する研究団体などを支援・助成するもので、只見町の自然や文化に関する科学的評価を目的としています。6 年目となる今回の成果発表会では、6 件の研究団体が研究成果を発表しました。

只見を代表する植物であるブナを扱った研究は 2 件あり、ひとつは環境条件の異なる尾根と谷とでブナの葉が持つ形質の違いを比較した研究で、尾根に分布するブナは葉緑素の濃度の低い薄い小さな葉をつけ、谷ではその逆の傾向にあることが明らかになりました（酒井暁子氏 横浜国大）。もうひとつは、ブナ林における個体間・個体内での開葉日の違いを調査した研究で、樹高の違いや個体内でも葉の位置によって開葉日に差がみられたことが発表されました（西坂志帆氏 横浜国大）。また、同じく只見を代表する植物であるヒメサユリを扱った研究では、DNA 解析の結果から、只見町内の個体は集団ごとに異なる遺伝子を保持しており、県外の他地域とも異なることが明らかになりました（山本将氏 明治大）。植物を扱った研究ではほかに、只見地域における集落周辺の広葉樹二次林について構成樹種やその優占度を調査した研究があり、20 林分を比較解析し、それらの成立過程と過去の人による土地利用との関係について明らかにしました（須崎智応氏 希少種保全研究会）。そのほかの分野として、布沢層の植物化石から当時の古植生と古環境を推定した研究があり、約 1100 万年前～1300 万年前の中期中新世は、現在よりも暖かい温帯気候であるが寒冷化に向かいつつある時期の植生であったことが発表されました（今川美咲氏 中央大）。また、只見町の水生昆虫相ついて調査した研究では、トワダカワゲラ類に関して、只見町周辺がミネトワダカワゲラの分布の北限付近であることが発表されました（東城幸治氏 信州大）。

最後に、只見ユネスコエコパーク支援委員会委員長である新潟大学農学部・教授の崎尾均 氏から「研究成果を国内外で広く発表していくことで只見ユネスコエコパークの推進につなげてもらいたい」と講評をいただきました。



▲活発な質疑応答が行われました

【只見ふるさとの雪まつり同時開催】 2月10日（土）、11日（日）

## 「冬の観察会」

“只見ふるさとの雪まつり”の開催にあわせて、ただみ・ブナと川のミュージアムに隣接する水の郷只見川公園において、樹木の冬芽や動物の足跡を観察する会を行いました。公園には2m近い積雪があり、参加者はかんじきを履いて雪の上を歩きました。雪の上を歩くことで普段なら届かない高い場所にある樹の枝も間近に見ることができ、公園内の樹木の冬芽を実際に触ってもらいながら観察しました。冬芽は来春に伸長する葉や花で、多くの場合は冬の乾燥や低温から保護する役割がある芽鱗に覆われています。柔らかそうな毛に包まれたコブシの冬芽（花芽）、ベとベとした粘液で覆われたトチノキの冬芽など様々な冬芽を観察しました。他にも雪上を歩いたタヌキの足跡を観察しました。参加者は只見町の雪深さと冬芽・動物の足跡を観察し、冬の時期ならではの自然観察を楽しめました。



▲冬芽を観察する参加者

【座談会】 2月18日（日）

## 「狩猟者に聞く－只見町の狩猟と自然との関わり」

クマの巻狩り（まきがり）の経験をもつ小椋紀一氏（小林）、渡部民夫氏（小川）をお招きし、只見町の狩猟をテーマに座談会を開催しました。巻狩りは、集団猟のことで特にカモシカやツキノワグマといった大型哺乳類を捕獲する際に行いました。巻狩りでは、全体を仕切るメアテがクマのいる対岸の山に陣取り、クマのいる山の尾根に撃ち手を配置し、そこに向かって谷から勢子が声をあげながらクマを追い上げ、撃つポイント（ブチバ）まで導き仕留めていました。只見町の一部地域の巻狩りなどの狩猟技術は秋田マタギの影響を受けており、昭和初期頃まで、獲ったクマから剥いだ毛皮を頭と尾を逆さまに被せ呪文を唱えるなどの儀礼を行っていたそうです。



▲巻狩りの説明をする小椋氏

狩猟を通して気づいた只見町の自然の変化について伺ったところ、狩猟圧の低下によりテン、イタチなどの肉食獣が増えてウサギ、ヤマドリなどが減っているとのことでした。また、只見町ではあまり見られなかったニホンジカやイノシシといった動物が約20年前から見るようになり、最近特に増えているということでした。参加者は狩猟者の実際の体験談を興味深く聞いていました。

【組織運営】 2月28日（水）

## 只見町ブナセンター運営委員会

平成29年度の第2回目となる運営委員会を開催しました。今回は、本年度行った只見町ブナセンターの事業報告が主な内容でした。企画展、開催行事、出版事業、調査・研究事業、人材育成・教育研修などについて事業内容を説明し、運営委員からの質疑やご意見を受けました。委員からは、ナラ枯れ調査の結果とその対策の成果について、次年度以降の事業内容についての質問がありました。また、ブナセンターの活動について一定の評価をいただきましたが、なお来館者数の増加や事業を盛り上げていくための方策についてのアドバイスをいただきました。ご意見やアドバイスなどを真摯に受け止め、より良い運営ができるよう努力してまいります。

【只見ユネスコエコパーク特別セミナー】 3月4日（日）

## 「多雪環境のもとで生きる樹木の苦闘と強<sup>したた</sup>かさ」

講師 杉田 久志 氏

雪森研究所（富山市）、富山県立山カルデラ砂防博物館アドバイザーの杉田久志氏をお招きし、ユネスコエコパーク特別セミナーを開催しました。

第1部では、積雪と樹木の関係についてお話しいただきました。日本は世界でも有数の多雪地帯であり、そこに生育する植物は積雪による様々な影響を受けています。雪の下は低温や乾燥、動物の捕食から保護されるメリットがある一方で、菌害や雪圧により幹枝が変形・破壊されるなどの被害を受けます。特に、樹木の生育にとって不利となる条件に対してどのような戦略をもって生育しているかを解説いただきました。例えば、雪圧を受ける中で成長するために根元曲りを形成することです。また、積雪分布による日本列島の植生パターン、地史的な環境変動と積雪環境の変遷についてのお話がありました。

第二部では、学生時代に浅草岳で行った研究について紹介いただきました。浅草岳の山頂部付近は、尾根中央部にブナ矮性林、北～西側にブナ高木林、南～東側に低木林・草原が分布しています。この分布の違いは積雪による影響であると予想し、コンパス測量を用いて積雪深の測定をしたところブナ高木林と矮性林では最も浅く、次に低木林、草原の順に深くなるといった結果が得られました。また、傾斜で比較すると高木林は中庸で、矮性林はそれより緩いか急傾斜な場所に分布していました。これは、緩・急斜面それぞれで生じる雪害によって高木の成長が阻害されているためと考えられました。当日は28名の方にご参加いただき、多雪地帯の植生について知識を深めることができました。



▲講師の杉田氏

【自然観察会】 3月18日（日）

## 「冬のブナ林と動物たち」

ただみ観察の森「下福井のブナ水源林」で積雪期の動植物を観察しました。この観察の森では、下福井集落の水源林として100年以上守られてきたブナ林を見ることができます。

この時期には昼間に解けた雪が朝晩の低温で凍り付き堅雪となり、雪に沈むことなく雪上を歩くことができます。下福井集落の裏に広がる田んぼの上の堅雪を渡り、観察の森へ向かいました。その間、二ホンウサギの食痕や田んぼを横切る獣の足跡があり、人家の近くまで動物が活動していることが分かりました。ブナの水源林では、このブナ林の成立経緯について解説し、ブナの落枝についた冬芽を分解し、その構造について観察しました。さらに、雪に穴を掘り、雪の下で冬を過ごすユキツバキの様子を観察し、多雪環境に対応した樹木の生態などを解説しました。参加者には只見町の雪とそこに生育・生息する動植物について観察・理解していただく機会となりました。



▲ブナを観察する参加者

【ブナセンター講座】 3月31日（土）

## 「野生動植物を守るために-生物多様性の保全と社会学」

講師 黒沢 高秀 氏

企画展「守りたい！只見の野生動植物－只見町の野生動植物を保護する条例」に関連し、ブナセンター講座を開催しました。この講座は、自然環境や野生動植物の保護・保全に対する理解や意識を深めることを目的としたものです。

講師の黒沢高秀氏（福島大学共生システム理工学類・教授）は、植物分類学および生態学を専門とし、特にアジア産トウダイグサ科の分類について研究されています。また、福島県内各地で植物相の調査を行っており、その成果を実際の自然環境の保全活動に積極的に活用し、また、地域の人たちに自然について知ってもらう啓発活動を続けておられます。



▲講師の黒沢高秀氏

はじめに、生物多様性を損なう要因について、実際に県内で起きている事例や国内の有名な事例を引用して具体的に説明され、生物多様性に危機が訪れていることを実感として理解することができました。続いて、自然環境を保全するための基本的な『考え方』について解説されました。原生的な自然環境と二次的自然環境（人間活動の影響を受けた自然環境）、人為的環境（市街地や公園）とでは保全・管理の基本的な考え方が異なります。何を保全するのかを区別

し、対象となるものの生態や特性を理解し、手つかずの保全が必要か、人手による適切な管理が必要かを区別する必要があります。

講座の中では、そのことをわかりやすく伝えるためにクイズが出されました。例えば、「自然にやさしい」として行われた保全活動の事例を提示し、それらの行為がかえって自然破壊をもたらすおそれがあるその理由を考えてもらうものです。これにより、参加者は能動的に考えることができ、野生動植物保全の考え方についてより理解を深めることができたようでした。

【春の自然観察会①】 5月4日（金・祝）

## 「春植物を愛でる！」

黒谷川林道で春植物の観察会を行いました。今年の積雪量は例年並みでしたが、3月下旬から暖かい日が続いた影響か雪解けが早い年でした。林道より上の斜面のフクジュソウは例年だと一面に花を咲かせていますが、今年はすでに花が落ち実となっていました。しかし、林道より下の斜面や残雪の近くでは花をつけているものが残っていたのでしっかり観察することができました。また、フクジュソウの代わりにカタクリが満開を迎えていました。ほかにも、キクザキイチゲやヒトリシズカといった花を観察しました。町内外から25名の方が参加され、春植物の生態について理解を深めるとともに春の花々を楽しみました。



▲集合写真

【春の自然観察会②】 5月5日（土）

## 「残雪のブナ林を歩く！」

ブナの新緑が美しい「癒しの森」で、ブナ林とそこに生育する植物について観察しました。ブナは着花数は年によって変化がみられますが、今年は沢山の花を着けていました。参加者は、地面に落ちた雄花や雌花を手にとって観察しました。ブナの大木が倒れると、それまで閉鎖されていた林冠層に穴（ギャップ）が生じ、光が差し込むことで明るい環境を好む植物やそれまで木の被陰下で生育していた更新木が成長を始めます。大きなブナの倒木の横では、タラノキやチマキザサといった植物が生育しており、その変化を実際に目にすることができました。この他、多雪地のブナ林の林床に生育する植物群の特徴を観察しました。参加者は、新緑のブナ林を楽しみながら、只見町のブナ林の特徴などを学びました。



▲国境の大ブナが倒れてできたギャップを見上げる参加者

# 只見町ブナセンター 2018 年度上半期行事一覧（予定）

6月	守りたい！只見の野生動植物 —只見町の野生動植物を保護 する条例 開催中～6月25日	6月16日 雪ふる里山を舞台とした環境教育の実践 —自然体験を通して「伝えたい」こと、 「伝わる」こと— 小林誠氏（十日町市立里山科学館越後松之 山「森の学校」キョロロ） (兼)町公認自然ガイドフォローアップ研修	6月17日 大谷地と周辺の森林植生を観 察しよう 観察地 大谷地 (兼)町公認自然ガイドフォロー アップ研修
	企画展アーカイブ 只見の手工芸 6月27日～7月23日	7月1日 工芸—自然と人をつなぐものづくり 小林めぐみ氏（福島県立博物館）	『ただみ観察の森』観察会①
8月	自然・生活文化基礎調査報告 只見の古民家 7月27日～9月		夏のブナ林観察会 観察地 塩沢川湧滝
9月		9月24日 只見の古民家と森林（仮） 井田秀行氏（信州大学）	『ただみ観察の森』観察会②
10 月	企画展アーカイブ 只見の巨木	10月20日～22日 全国ブナ林フォーラム	『ただみ観察の森』観察会③

<編集後記>今年度もブナセンターだよりを通じて、みなさまに只見町ブナセンターの活動について知っていただき、協力いただけるように頑張っていきたいと思えます。みなさまのご来館と行事への参加を心よりお待ちしております（石川）。

発行 **只見町ブナセンター** 〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下 2590 番地

電話 0241(72)8355 ホームページ <http://www.tadami-buna.jp>

FAX 0241(72)8356 電子メール [info-buna@amail.plala.or.jp](mailto:info-buna@amail.plala.or.jp)

附属施設「ただみ・ブナと川のミュージアム」、「ふるさと館田子倉」

開館時間：午前9時～午後5時（最終受付は午後4時まで）

休館日：火曜日（祝祭日の場合は翌平日）、年末年始（12月29日～1月3日）



只見町ブナセンター